

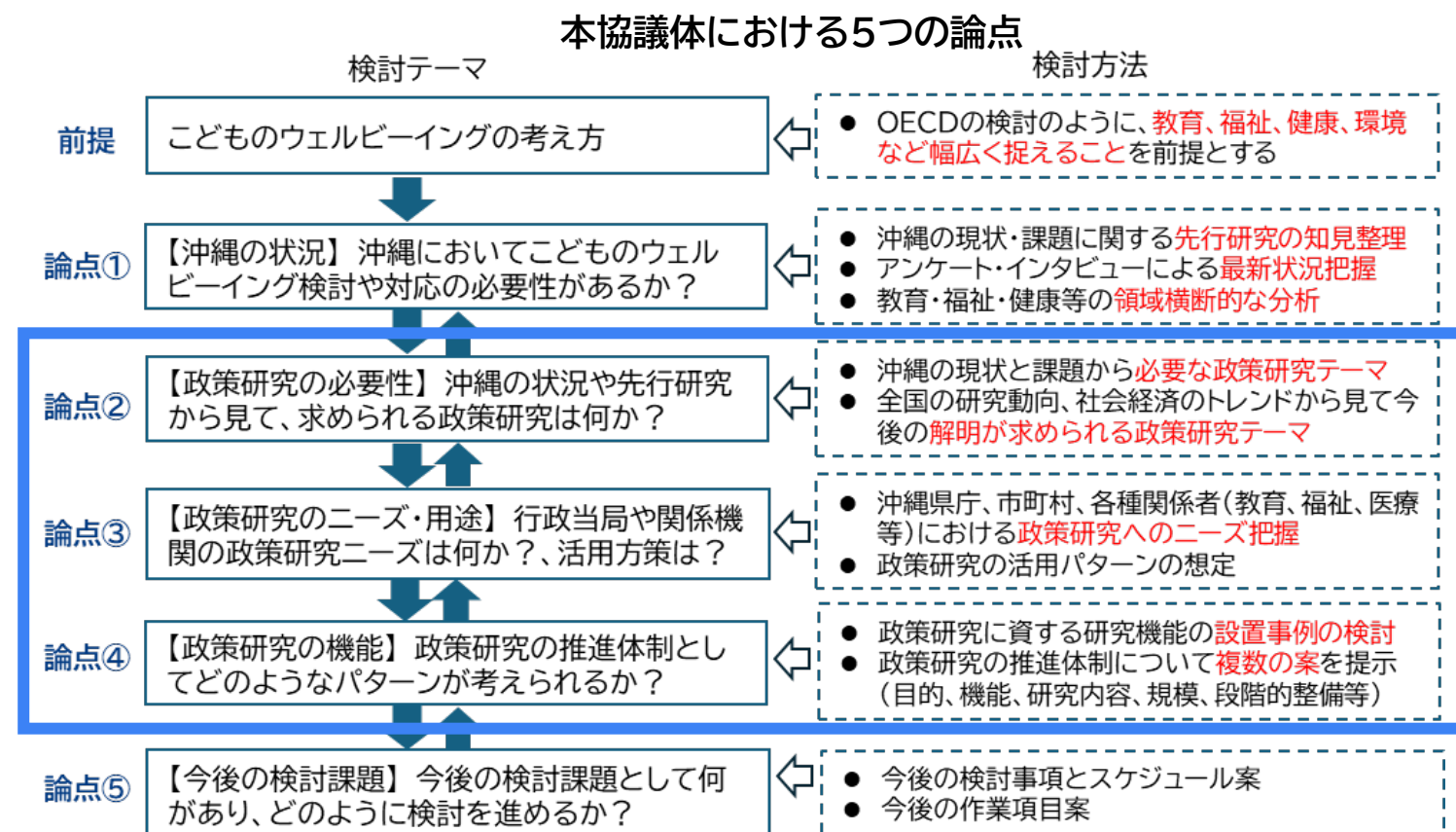
本日の討議事項、前回の振り返り等

目次

1. 検討の進め方	3
2. 本日の議論の流れ	5
3. 本日の議論にあたっての前提	6
4. 第3回協議体でのご意見	8
5. 前回の振り返り	9

1. 検討の進め方(1)

- 第4回協議体では、3回協議体における政策研究課題や政策研究テーマ例を追加し、各種関係者へのヒアリング結果も踏まえ、沖縄におけるこども施策向上のためのニーズや活用方策を明らかにする。



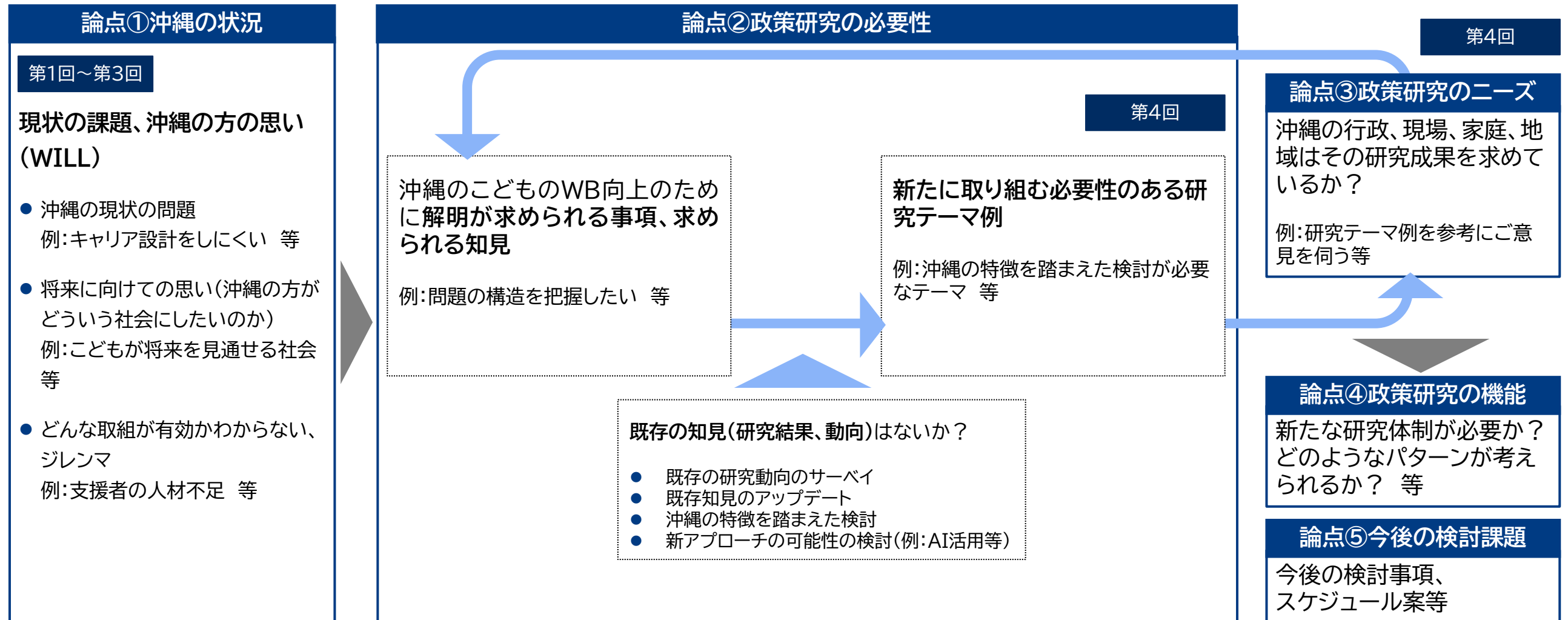
協議体の開催スケジュール

各回 (日程候補)	各回の検討テーマ、議題(論点番号は左図と対応)
第1回 (令和7年 6月25日)	事業の目的を踏まえ、ウェルビーイングを導入する意義を明らかにしたうえで、協議体での本年度のゴールを共有する。(前提)
第2回 (令和7年 8月29日)	既存調査・研究から見た沖縄のこどもの現状・課題を踏まえ、沖縄におけるウェルビーイング導入の必要性を明らかにする。(論点①②)
第3回 (令和7年 10月27日)	全国の政策研究課題や政策研究テーマの例を踏まえ、解明が求められる政策研究を明らかにする。(論点②) 追加して、研究体制の在り方を検討する。
第4回 (令和7年 12月12日)	第3回の事例に追加し、各種関係者へのヒアリング結果も踏まえ、沖縄におけるこども施策向上のためのニーズや活用方策を明らかにする。(論点②③④) 追加して、研究体制の在り方を検討する。
第5回 (令和8年 2月中旬)	これまでの議論を踏まえた年度総括を行い、政策研究を推進する体制のあり方について整理するとともに、今後の検討課題を明らかにする。(論点④⑤)

※青字は今回追加。

1. 検討の進め方(2)

- 沖縄の現状の課題・沖縄の方の思いをもとに、解明が求められる事項を整理し、既存知見の有無を確認した上で、新たに研究する必要性の検討を行う。
- 政策研究のテーマ例(論点②)はニーズ(論点③)を踏まえて見直す(ループ状の検討)。



2. 本日の議論の流れ

- 沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けたこども施策向上のために必要性の高い研究テーマと機能について

事務局 説明

資料3

(2) アンケートデータを用いた主観的要素等に関する分析・有識者ヒアリング調査の結果報告

- ・ アンケート調査の結果報告
- ・ 主観的要素に関する有識者ヒアリングの結果報告
- ・ 主観的要素に関する既存調査(内閣府等)分析結果報告

事務局 説明

資料4-1、4-2

(3) 政策研究へのニーズ、テーマ、推進体制に関する報告

- ・ 構成員へのアンケートの結果
(沖縄のこどもにとって大切なこと、期待する研究テーマとその理由)
- ・ 自治体との意見交換の結果
- ・ 文献調査・有識者ヒアリングの結果

内閣府 説明

資料5

(4) 満足度・生活の質に関する調査報告

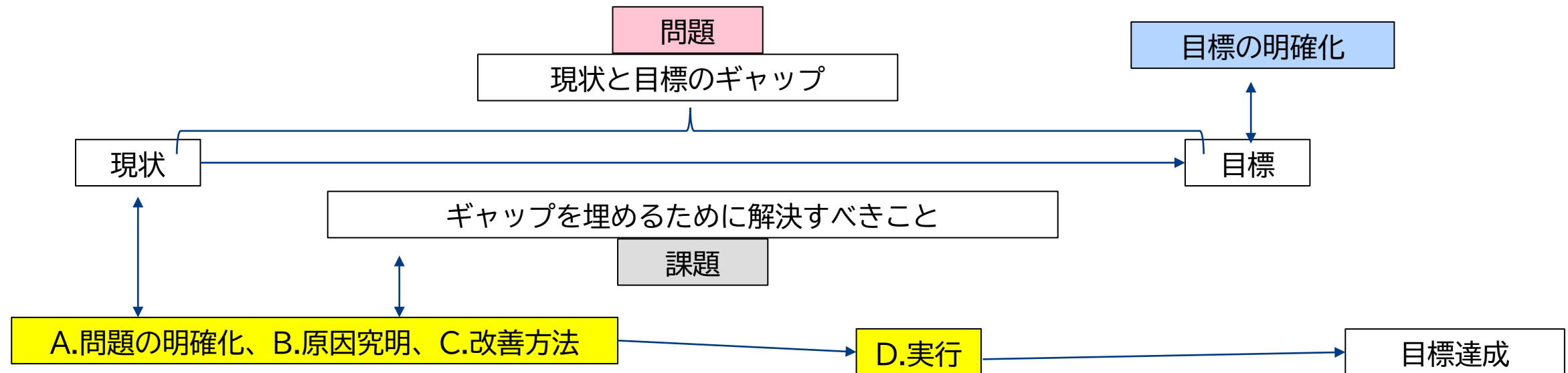
- ・ 内閣府にて実施した「満足度・生活の質に関する調査」の結果について報告

意見交換

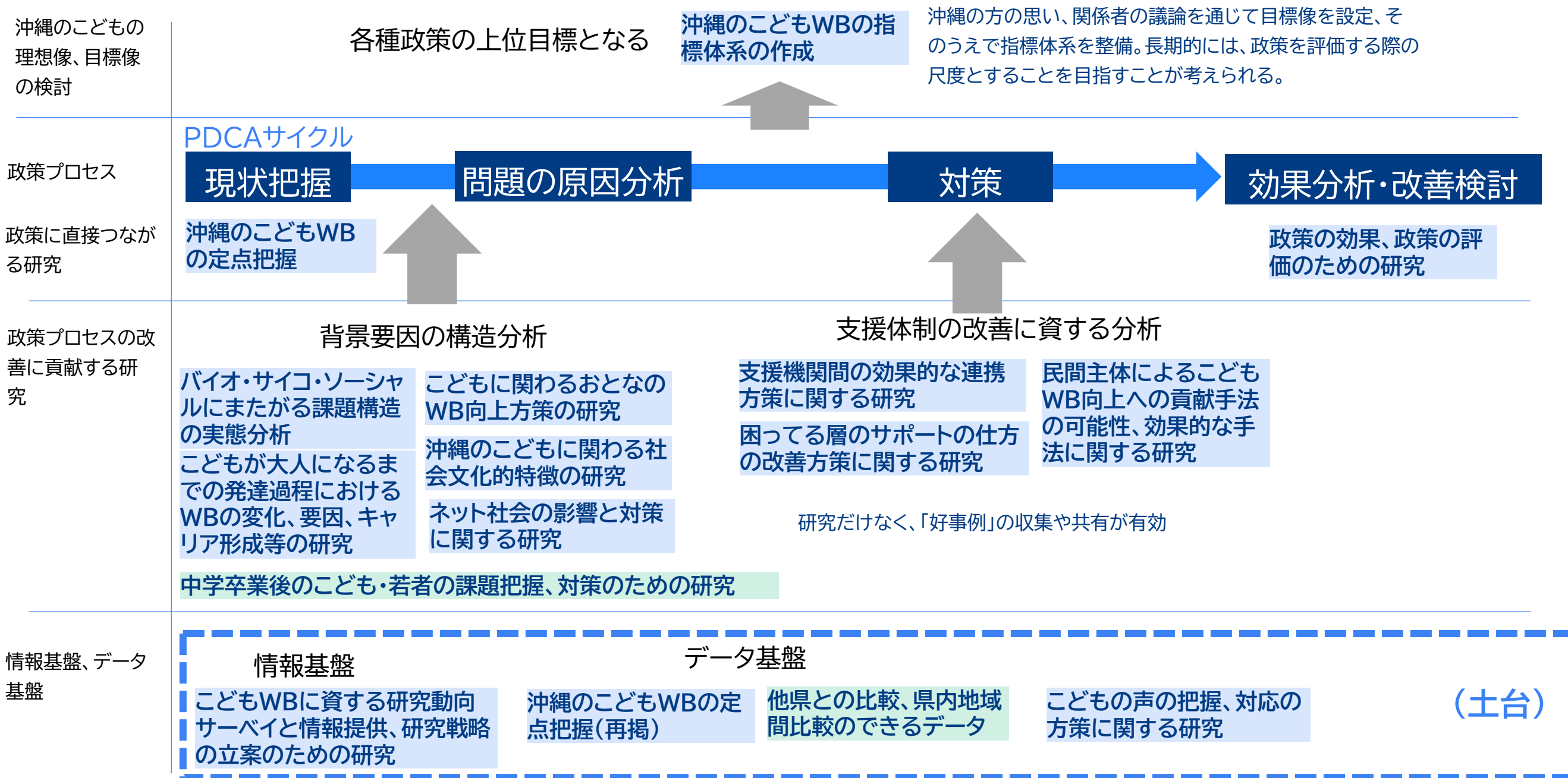
- ・ 構成員へのアンケートの結果を踏まえ、沖縄のこどもの目指すべき状態や、改めて取り組むべき研究テーマについてご意見をいただきたい。
- ・ 政策研究テーマに取り組むため、その研究体制に求められる関連機能について、何が必須機能と考えるか。また、各機能の実現性について、ご自身のお立場や組織でどのような関わり方が考えられるか、ご意見をいただきたい。

3. 本日の議論にあたっての前提(1)

- まず、沖縄における「こどものウェルビーイングの考え方」のあるべき姿を明らかにし、その現状と目標のギャップを埋めるための課題を特定する必要がある。
- そのうえで、研究テーマを設定し、そのために必要な機能を検討していくことが求められる。



3. 本日の議論にあたっての前提(2) 研究テーマ例の体系化



4. 第3回協議体でのご意見

(期待されるテーマ・機能) 指標に関するご意見	● どの施策がこどものウェルビーイングにつながったのかの指標として、全県で共通した項目を設定いただき、定点調査としてデータ蓄積・比較検討できると行政としては助かる。 ● こどものウェルビーイングの指標については、健康指標も必要と考える。
(期待されるテーマ・機能) 連携に関するご意見	● 産後のケアに助産師を活用するなど、ハード面の構想を県と協議しながら研究を進める必要があると感じている。 ● こどもの生活の場は、家庭と学校が非常に大きい部分を占めているため、やはり教育と連携しながら子どもたちの問題の把握や解決に向けていかなくてはならないと思う。
(期待されるテーマ・機能) 支援の難しさに関するご意見	● 支援が必要と思われる家庭の保護者から「うちは大丈夫です」と言われるケースがあり、「サポートの仕方の改善方策」、「こどもに関わるおとなのWB向上方策」については、ぜひ研究していただきたい。 ● こどもの意見を聞いてそれを政策展開していくことは重要であるが、例えば不登校の子どもたちの声をどう拾ってサポートにつなげていけるか、地域や居場所にもつながっていないような子どもも一定数いるのではないかと懸念している。 ● 児童養護施設では、退所後に顔を見せに帰ってくることが非常に少ないという現実がある。
(期待されるテーマ・機能) 持続可能な取り組みに関するご意見	● 今までの「支援」という観念ではなく、応援やエールを送って自分で立ち直っていくようなことを中心として考えなければならない。 ● 当事者参加型アクションリサーチは非常によいと思う。受け身ではなく、自分たちが参加し企画し育っていくという考え方は、沖縄の子どもにとって必要。 ● 重要なのは当事者に議論いただき、「これなら自分たちもできる」ということを考えたり選んだりすることである。 ● 貧困など、関心がない・経験不足で検討の場に参加できない層についても、沖縄における本事業において対象から外せない層であり、そういったグループには別のアプローチが必要になる。 ● ポジティブ・デビアンスを沖縄で活用する際に、行政としてどのような構成メンバーで事務局を組めばよいのか検討の余地がある。
その他	● データの連結におけるDX化について、プライバシー保護のためデジタル化できない紙媒体があり困難性を感じている。 ● 好事例について、他者との関わりや、自分で行ったこと、考えたこと等、行動を分解し要素を抽出することで、同じ経験はできなくても、今の状況に適応する形で新しいプログラムを検討し、似た経験をしてもらうことは可能である。

5. 前回の振り返り(1)

- 協議体でのご意見、文献・ヒアリング調査での課題整理をもとに以下4つのカテゴリーに分けて研究テーマ例をご報告。

①現在、顕在化している問題点に対応して解決策を見出すためのテーマ例(支援体制のあり方の検討)

②長期的な政策の方向性を考えるために、基本的なファクトを把握しておきたいテーマ例(沖縄のこどものWBの構造解明)

③沖縄のこどものWBの状況把握、政策効果把握等に関わるテーマ例(データ基盤整備)

④その他(民間主体、最新トレンド、研究戦略)



次ページ以降に紹介

5. 前回の振り返り(2)

- 支援者間の連携、困っている層への支援等については、協議体やヒアリングで多くご意見があり、対応が必要ではないか。

①現在、顕在化している問題点に対応して解決策を見出すためのテーマ例(支援体制のあり方の検討)

【凡例】A1,A2等の記号は前掲の図との対応を示す

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
支援者間での連携を効果的に進めるにはどうしたらよいか D1 D2	支援機関間の効果的な連携方策に関する研究 【趣旨】支援者間での情報連携、子どもへのサポートのつながり等の面で課題があり、解決が期待される。	● <u>こどもに関する情報を</u>、簡易かつ個人情報管理をしつつどのように共有するか。 ● <u>こどもに連続した対応をするため</u>、例えば、学校と居場所との連携をどう進めるか。 ● 最適な支援に向けた<u>支援組織間の連携、の分業体制の見直し</u>。等
困っている層への支援の仕方をどう改善できるか C1 C2	困っている層のサポートの仕方の改善方策に関する研究 【趣旨】支援が必要な家庭にどう支援を届けるか(不要と言われてしまう問題等)、体験格差、精神的な面での対応等どのようなサポートが有効かの解明が期待される。	● 困っている層における<u>各種問題の構造、関係の分析</u>。 ● 困っている層に<u>負担感や抵抗感を感じさせずに支援を届ける方法</u>を解明。 ● 教育・福祉・保健分野にまたがった支援策について<u>実験的アプローチ</u>も含めて検討。
こどもの声の把握、活用をどう進めるのが効果的か A2	こどもの声の把握、対応の方策に関する研究 【趣旨】こどもの意見(view)を聴く取組は全国では始まっているが、模索段階にある。どのように声を把握し、対応を進めることが有効かの解明が期待される。	● <u>こどもの声の把握</u>に関する有効事例の検討、実験的アプローチ。 ● <u>こどもの声への対応</u>に関する事例調査、政策や現場での取組への活用方策の検討。 ● <u>新技術の活用(例:表情や声のAI解析技術)</u>の可能性を視野に入れた研究も期待される。
バイオ・サイコ・ソーシャルの横断的な問題把握 A2	バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる課題構造の実態分析 【趣旨】バイオ・サイコ・ソーシャルの観点で子どもを複層的に捉える分析が発展途上のため、今後研究を強化し、課題や対策の検討につなげることが求められる。	● バイオ・サイコ・ソーシャルにまたがる視点での実態を把握し、解決の方向性を見出す。 ● 困っている層において健康診断の受診率が低い等の問題がある。貧困状況による健康格差、体験格差等も指摘されている。

5. 前回の振り返り(3)

- 沖縄のこどものWBの構造について未解明の部分を解明し、政策検討の基本的知見として活用することが求められるのではないか。

②長期的な政策の方向性を考えるために、基本的なファクトを把握しておきたいテーマ例(沖縄のこどものWBの構造解明)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
沖縄のこどもが大人になるまでの成長過程を見通して、望ましい対応は何か B1	こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なWBの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究 【趣旨】現状、沖縄のこどもの主観的幸福度は比較的高いが、大人への発達過程全般を見通した場合に課題がある可能性がある。発達過程全般にわたる検証が求められる。	● 沖縄のこどものWBが大人への発達過程においてどのように変化するか、その要因は何か、同一集団を10年以上継続的に調査し、解明することが有効ではないか。 ● 短期的には、大人になった人にこども時代を振り返ってもらい、WBに影響する因子を抽出するアプローチが考えられる。 ● 現状、教育・福祉・保健にまたがる同一年出生集団(コホート)の研究事例は少ない。
こどものWB向上のためにおとなのWB向上をどう進めるべきか B2 B3 B4	こどもに関わるおとなのWB向上方策の研究 【趣旨】こどもに関わる大人の幸福度が上がると子どもの幸福度もあがることがわかっている。こどもに関わる大人のWBをいかに向上させられるかの解明が求められる。	● こどもに関わる大人(保護者、教師、支援者等)のWBが高いとこどものWBも高まる傾向がある。大人のWBの因子については各種の研究がある。 ● こどもに関わる大人のWBを向上させるために何が重要か、政策的対応の可能性はないか等を解明することが求められる。
他県とは異なる沖縄の社会文化の特徴は何で、こどものWB向上にどう生かすか B5	沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究 【趣旨】沖縄には他県とは社会文化がある。その特徴を把握するとともに、沖縄のこどものWB向上のために必要な対応の検討に活かすことが求められる。	● 例えば、ゆいまーるの文化、なんくるないさーの文化、離島性、産業構造に基づくメンタリティ等の特徴は、現在も続いているか。どのように変化しているか。 ● 沖縄のこどものWB向上のために、沖縄の社会文化の特徴をどう踏まえて対応すべきか。

5. 前回の振り返り(4)

- こどものWBの状況把握、政策効果把握等のためにデータ基盤整備が求められるのではないか。

③沖縄のこどものWBの状況把握、政策効果把握等に関わるテーマ例(データ基盤整備)

把握したい事項(ニーズ)

沖縄のこどものWB
の基本的なデータ整
備

A1 D3

研究テーマ例

沖縄のこどもWBの定点把握

【趣旨】沖縄のこどもWBの基礎データとして定点的に調査を行い、様々な分析に活用することが求められる。

問題意識、アプローチ例

- 沖縄県庁において実施しているこどもの実態調査を定点調査化し、時系列的な変化、各種層別の比較検討等の分析のベースとすることが考えられる。
- それとは別に、教育・福祉・保健にまたがるこどものデータを収集・蓄積・分析する仕組みの検討が考えられる。

沖縄のこどものWB
の指標体系の作成と
政策評価に活用でき
るデータ基盤の整備

A1 D3

沖縄のこどもWBの指標体系の作成

【趣旨】沖縄のこどもWB実現を目指すにあたり、WBの指標体系を作成し、各種政策がWBにどのように貢献したかを把握するための基本データとする。

政策の効果、政策の評価のための研究

【趣旨】沖縄のこどものWBへの貢献を目標として、各種政策の貢献状況の把握、より効果的な推進方策の検討を行うことが求められる。

- こどものWBに関する各種指標体系を参考にしつつ、沖縄において重視する観点を加えて、WBの指標体系を作り、それに基づく定点調査、政策効果分析等に活用することが考えられる。
- こどものWBに関する各種指標体系の作成と合わせて、政策の効果分析を行い、政策の改善に活用することが考えられる。

5. 前回の振り返り(5)

- 民間主体によるWB向上の可能性研究、最新トレンドへの対応、研究戦略の立案のための研究等も求められるのではないかな。

④その他(民間主体、最新トレンド、研究戦略)

把握したい事項(ニーズ)	研究テーマ例	問題意識、アプローチ例
民間主体によるこどもWB向上をどう実現するか D4	民間主体によるこどもWB向上への貢献手法の可能性、効果的な手法に関する研究 【趣旨】民間の支援団体、民間企業の活動、地域の活動等、行政だけでなく各種主体による効果的な取組の可能性を探り、民間主体の活動に活かすことが求められる。	● こどものWB向上のためには、行政による対応だけではなく、民間主体の役割が大きい。民間主体における取組の可能性についての研究は発展途上である。 ● 民間主体があまり負担を感じずに、こどものWB向上に役立つ活動ができるような共助モデルを見出すための研究が必要ではないか。(例:時間や場所の活用、シェアハウス等)
最新トレンドにどう対応するか C3	ネット社会の影響と対策に関する研究 【趣旨】SNS等の普及はこども社会に多大なる影響を与えているが、その実態は十分解明されていない。最新トレンドにタイムリーに対応した研究が求められる。	● こども社会の意識に大きな影響を与えているSNS等について最新の状況を把握し、影響の分析、対応のあり方の検討を行う。 ● 地域での取組に留まらず、国の規制等のあり方の検討も必要となる可能性もある。
こどものWBに関する研究戦略立案のための研究 前掲図にないが、全体に関わる	こどもWBに資する研究動向サーベイと情報提供、研究戦略の立案のための研究 【趣旨】こどもWBの実現に向けて参考となる知見を常時収集し情報提供することが求められる。また、研究戦略の立案のための研究が求められる。	● こどもWBに貢献する既存の知見、研究動向をマッピングし、分野横断的に研究動向をサーベイするとともに、その結果を関係機関に解説とともに情報提供し、活用を促す。 ● 沖縄のこどものWB実現に向けて特に研究が必要とされるテーマを検討するため、沖縄の現状、国内外の研究動向等を勘案して研究戦略を立案するための研究を行う。



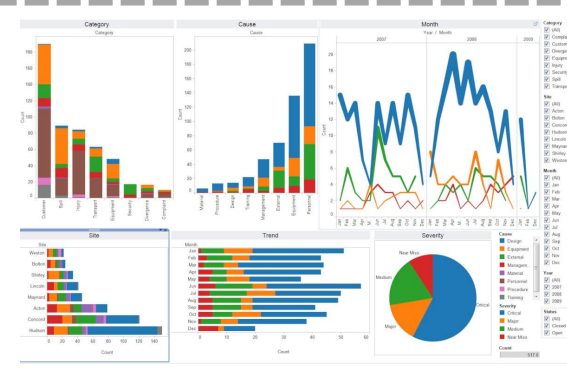
既存調査・行政データ
琉大のプロジェクト
本プロジェクト成果物
+
こどものこえ
各種データ収集



- ・データ連携/連結
- ・こどものBPS*の状況の実態把握
- ・施策評価

*BPS: Biopsychosocial

こどもたちのWell-beingを
高めるPDCAサイクル



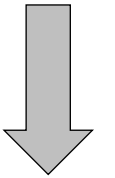
解決すべき課題設定
進捗の共有・議論
合意形成・意思決定⁴



政策・事業実施
行政計画への反映・利活用
調査・研究の実施・評価



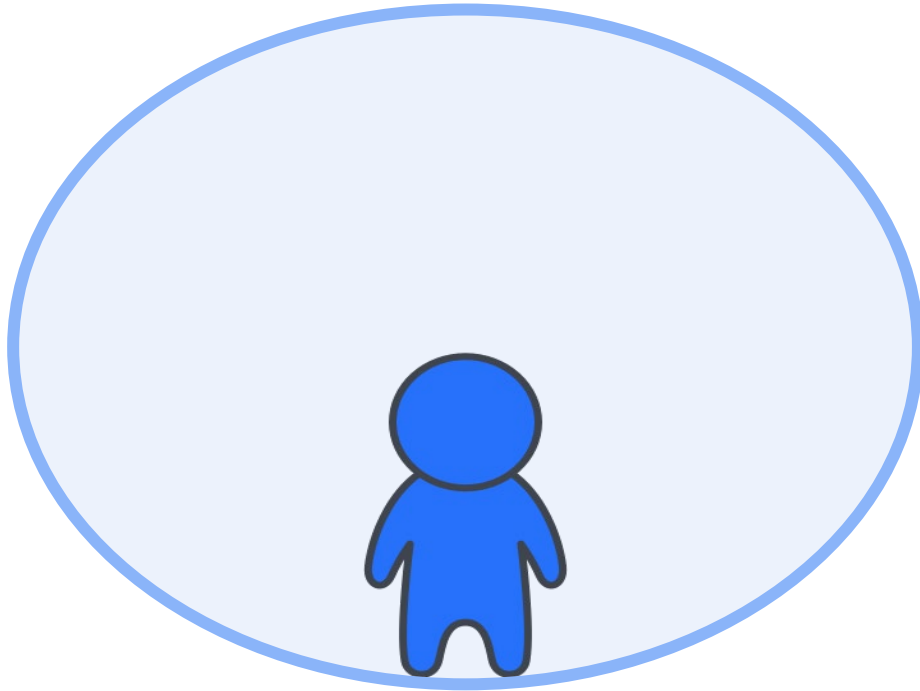
全国各地へ



アジアへ

沖縄のこどもにとって大切なこと

～これまでの協議体の議論から～



こども・若者

- 自己効力感
- こころの問題
- 体験
- 将来への希望・夢

環境要素

- 家庭・妊婦・親の状態
- 学校の役割
- 地域・コミュニティの形成
- 相談する/応援してくれる人
- 貧困対策

その他のキーワード

- ・すべてのこども対象（ポピュレーションアプローチ）
- ・データの利活用

○定義

同じ環境・条件下にあるにもかかわらず、他者とは異なる行動によって**良い結果を出している人やグループの行動**に注目する手法

○目的

外部のベストプラクティスではなく、**コミュニティ内部にすでに存在する成功事例**から学び、**持続可能な変化**を生み出すこと。

○適用分野

社会問題、教育、保健・医療・福祉、組織改革など幅広い分野

例）ベトナム栄養改善プロジェクト（セーブ・ザ・チルドレン）

- 背景：1990年当時、ベトナムでは5歳未満児の約65%が栄養不良という深刻な状況
“費用、時間をかけない解決策”が急務
- アプローチ：**同じ貧困環境下でも栄養不良ではない子どもたち**に注目
- 発見された行動（ポジティブ・デビエンス行動）：
 - －食材の工夫：さつまいもの葉、小エビ、小カニなど、地域で入手可能な栄養価の高い食材を使用
 - －衛生習慣：食事中に手が汚れるたびに手洗い
 - －食事頻度：1日4～5回の少量頻回食
- 成果：この行動を**近隣の家庭**に広め、続いて**地域全体に広めていく**ことで、短期間で栄養不良率が劇的に改善

(Richard Pascale, Jerry Sternin, Monique Sternin The Power of Positive Deviance: How Unlikely Innovators Solve the World's Toughest Problems. 以下 Pascal RT. et al., 2010)

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ